

令和6年度 第6回気高地域振興会議視察概要

日 時 令和6年11月21日（木）午前8時30分から午後5時00分

場 所 鳥取県西伯郡南部町

〔出席委員〕

河根裕二、渡辺雅子、地原伸、吉浦郁夫、八田孝敏、片山敬子、鈴木陽子、
木村明則、近藤可菜、武田敏男

以上10名（順不同敬称略）

〔欠席委員〕

宇津原あけみ、田中敦志

〔事務局〕

久野副支所長兼地域振興課長、伊藤産業建設課長、小宮地域振興課長補佐、
山本地域おこし協力隊員

◎視察概要

1. あいみ富有の里地域振興協議会

えんがーの富有（地域交流拠点施設）

地域住民の自治組織として設置し、地域の連帯と活性化を図り
地域住民が将来とも安心して生き活きと暮らすことができるよ
う各事業に取り組んでいる。

●代表的な事業

- ・ 地域特産品の開発・育成
- ・ 青少年の健全及び子ども会の育成



えんがーの富有

2. 南部町教育委員会事務局 人権・社会教育課

キナルなんぶ（図書館、生涯学習、仕事スペースなどの複合施設）

「学び」「交流」「情報」3つの柱を軸に社会教育施設機能
だけでなく、多世代が多目的に交流し、生涯に渡り活躍でき
る場を設置し、各事業に取り組んでいる。

●代表的な事業

- ・ 高校生サークル With you 翼
- ・ 新☆青年団へん to つくりの取り組み



キナルなんぶ

3. 地域振興会議委員の感想・意見（抜粋）

1) あいみ富有の里地域振興協議会

- ・気高のような公民館がないことに驚いた。地域振興協議会といった組織は鳥取市（気高町含む）が61地区の公民館が中心に行っている活動や運営と少し違い、ある意味新鮮で素晴らしいと思った。最近、鳥取市のあちこちで公民館とまちづくり協議会の1本化が進んでいます。南部町は、既に先行して取り組んでおられることに諸課題はあるにせよ改めて凄いと感じた。
- ・本市（町）内に組織化されている「まちづくり協議会」と設置されている「公民館」を融合したような組織形態であると思われるが、商業施設等を運営するなど、観光と産業の振興を図っていることに興味を持った。地域振興会議の役割に違いがあることを認識した。
- ・とっとり花回廊に近く、地域活性化を目的にした町の「南部町フルーツロード構想」の中核になるなど地理的な条件に恵まれ、観光と産業の振興を図り、町の支援も手厚い。気高町内の小学校が統合された後の空き校舎の活用法を考える際に参考になるのではと感じた。ただ、同じような成果をあげるには、南部町と同等の行政の手厚い支援が必要だとも感じた。
- ・地域の農産物を加工して販売し法人化を目指し、テナント店と協力して集客に結びつけるなど、積極的な取り組みが促進されており、大変参考になった。特産品は地域振興の起爆剤として非常に有効であり、多くの人を引きつけるだけでなく、それを出荷している農家にも好影響を与えている。気高町でも特産品を包括したストーリーを仕上げ、施策に反映していきたい。
- ・“自分たちの町は、自分たちで解決しよう！！”という言葉が印象的であった。この考え方をもっと多くの人たちに少しずつでも輪を広げていけたら、やがて大きな力になると感じた。

2) キナルなんぶ

- ・強く印象に残った取り組みであった。一番強く感じたことは、将来の町の姿を構想にしっかりと落とし、強いリーダーシップの下で一丸となって進んできた現在の姿であった。
- ・様々な取り組みを行っており素晴らしいと感じた。昔から南部町は、教育に熱心で、県内でもモデルとなる取り組みを行っている自治体です。やはり、最後は教育や文化が

重要であると改めて考えさせられました。

- ・図書館は子どもからお年寄りまでの各年齢層が世代を超えて交わることができるように、それぞれの興味や用途に応じて工夫された機能的で開放的な施設であった。近くに西伯小学校があり、放課後には多くの児童が訪れて本を読んだり、宿題をしたり、親の迎えを待つなど、安心して過ごせる場所となっている。
- ・気高町は一方で教育文化施設が散在しており、十分に利活用されていないと感じた。老朽化したコミュニティーセンターや福祉施設等の建て替え時期が来ており、小学校の統合に併せて、施設複合化、利活用方法、設置場所等を改めて検討する必要性を大いに参考にするべきと感じた。
- ・町ぐるみで「若者の地元定着」を目指し、当地には「高校はないけど、高校生はいる！」とのコンセプトのもと、「with you 翼」という名の高校生サークルを10年ほど前に誕生させている。毎年、活動資金を稼ぐために、高校生が作ったさくら餅を桜祭りで販売することからスタートし、デジタルリーダーとしてスマホ教室の指導者を務めたり、国際交流事業に参加したりして活躍している。
- ・成人式実行委員の活用から始まった新青年団「へん to つくり」は8年の実績があり、さつまいもづくり&大判焼きの楽しい活動もしながら、他団体との交流を積極的に進めている点に特色がある。全員が各種団体の委員に就任していることも、責任ある立場につかせることで、地域の担い手としての自覚と誇りを育てているのだろうと思った。
- ・「人口減を食い止めるために教育を手段として取り組む」、「地域の教育愛のシャワーをどんどん浴びせる」という南部町の意気込みを強く感じた。
- ・町ぐるみで、いかにして若者を地元に着してもらうかの取り組みを聞いて、気高地域でも中学卒業後に「気高」を好きになってもらうには、どういった取り組みが必要になってくるのか、地域振興会議でも考えていくことが必要だと思った。

以上